

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/12～4/19	4/19～4/26	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	0.026
		セシウム137	0.094	0.200
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	0.024
		セシウム137	0.080	0.150
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.026	0.048
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	0.012
		セシウム137	0.026	0.091
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	0.021
		セシウム137	0.037	0.130
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	0.020
		セシウム137	0.026	0.120
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.065	0.130
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	0.016	0.019
		セシウム137	0.110	0.150

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		4/12～4/19	4/19～4/26	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.110
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.029

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長) による解説

第60回目 大気浮遊じん放射能測定結果の解説

平成29年4月12日～4月26日の大気浮遊じん放射能濃度の測定結果が出ました。今回の測定でもセシウム137濃度は、引き続き0.1 mBq/m³を下回り極めて低い値(平均0.084mBq/m³)でした。事故後、大気中のほこりなどに含まれる放射性セシウム量は、一時的に上昇しましたが、事故の100日後には、現在の測定値まで低下しました。^{注1}現在の福島で測定されているセシウム137濃度は、天然に常に存在するベリリウム7の濃度の1/10～1/20程度と低いものです。このことは、現在も事故で飛散したセシウム137が環境内に存在するものの、その濃度は、自然放射能のレベル以下であることを示しています。

^{注1}東京大学大気海洋研究所、国立環境研究所などの大学および研究所が共同で実施した東日本の99地点における浮遊粒子状物質中の放射性セシウム(セシウム134とセシウム137)濃度測定結果の要約
(<http://www.comp.tmu.ac.jp/cosmochem/Fukushima/spm.html>)